

## 保健医療学部 白衣授与式

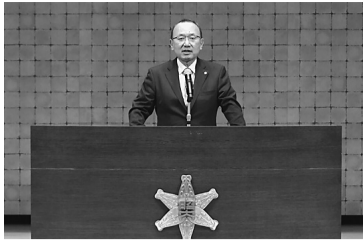
12月24日、令和3年度保健医療学部白衣授与式を上條記念館で挙行了。

同式は、臨床実習を目前に控えた保健医療学部2年生が倫理観や患者さんに対する思いやりの心を再認識して、医療人を目指す者としての心構えを新たにする目的で毎年実施している。今年度は新型コロナウイルス感染症防止のため、来場者を制限するなど必要な措置を講じたうえで執り行った。

下司映一保健医療学部長は告辞で、「病院実習は、これまで学んだ知識・技能・態度を実践する場です。これから三つのことをぜひ学んでください。第一に『病院で患者さんとその家族と一緒に医療人として何ができるかを考える』、第二

に『病棟で働く先輩の姿を見て3年後10年後の未来像を予測する』、第三に『チーム医療の現場を見て相手の専門性を理解し、自分の専門性を理解してもらう術を考える』です。2年後に昭和大学保健医療学部の立派な卒業生となるよう、自分の未来像を考えながら今日の白衣授与に臨んでください」と述べた。

告辞を終えると、2年生156名一人ひとりに教育職員から白衣が授与された。真新しい白衣を身につけた学生たちは、本学附属病院をはじめとする各施設で実習に取り組み、チーム医療の現場において、看護師・理学療法士・作業療法士それぞれの役割を学んでいく。



告辞を述べる下司映一保健医療学部長



白衣授与

## 昭和大学病院PCRセンターが行った 新型コロナウイルス感染症に関する研究成果が英学会誌に掲載

昭和大学病院PCRセンターの石川文博講師(遺伝子組換え実験室)、木内祐二教授(医学部薬理学講座医科薬理学部門)、宇高結子講師(同)、小山田英人研究員(薬理科学研究センター)、石野敬子教授(薬学部臨床薬学講座感染制御薬学部門)、時松一成教授(医学部内科学講座臨床感染症学部門)、相良博典教授(医学部内科学講座呼吸器アレルギー内科学部門)らの研究グループは、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)患者に由来する新型コロナウイルスの全ゲノム配列を用いたハプロタイプネットワーク解析が、病院内のアウトブレイクに関わるウイルス株の系統や感染ルートの追跡に有用であることを見出した。この研究成果は、英国the Healthcare Infection Societyの学会誌「Infection Prevention in Practice」に掲載された。

### 【研究チームからのコメント】

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の特徴の一つとして、発症前もしくは無症状の感染者からも他者への感染がおこることが挙げられ、この性質が従来の疫学調査による感染リンクの追跡を困難とし、感染拡大につながる大きな要因となります。このような状況の下、感染拡大を未然に防ぐために従来の疫学調査をサポートするための新たな手法が求められていました。これまでに次世代シーケンサーから得られる全ゲノムシーケンスとハプロタイプネットワーク解析をCOVID-19の公的疫学調査に用いた報告はありましたが、病院内で発生した患者間の感染リンクの追跡に適用された例はほとんど知られていませんでした。

本研究では、2020年末から2021年1月にかけて昭和大学病院で発生したアウトブレイクに関わった患者17名のSARS-CoV-2分離株と上記の解析手法を用いて患者間の感染リンクの追跡を行うことで、院内に発生したCOVID-19患者由来のウイルス株の系統が全てB.1.1.214であったこと、さらに少なくとも3つの異なるウイルス株が院内に持ち込まれ、それらを起源としてアウトブレイクが起こっていたことを示しました。このような情報に基づいて感染者間の接点を詳細に調べることで、より重点的な感染対策を講じることが可能になると期待されます。

過去20年を振り返ると、SARS、MERS、SARS-CoV-2と3種のコロナウイルスが発生し、多くの国でアウトブレイクを引き起こしました。この事実、近い将来に新たなコロナウイルスが発生する可能性を示唆しています。このように新たなコロナウイルス感染症が発生した場合にも、今回の手法が有効である可能性が高いと考えられます。本研究の成果が今後の病院内の感染管理の一助になれば幸いです。



左から宇高結子講師、小山田英人研究員、石川文博講師、木内祐二教授、石野敬子教授

## 緒方浩顕教授らの研究成果が世界4大医学雑誌『JAMA』に掲載



緒方浩顕教授

緒方浩顕教授(医学部医学教育学講座/横浜市北部病院医療教育支援室)、秋澤忠男客員教授(医学部内科学講座腎臓内科学部門)らが実施した大規模ランダム化比較臨床試験結果が米国内科医会雑誌『The Journal of the American Medical Association (JAMA)』(2020年のインパクトファクター 56.3 (JCR調べ))に掲載された。この臨床試験では、高リン酸血症を呈する血液透析患者において、カルシウム含有リン吸着薬とカルシウム非含有リン吸着薬の心血管疾患リスクに与える影響を検証し、両者には差がないことを明らかにした。

### 【緒方浩顕教授のコメント】

慢性腎不全では、食事中に多く含まれるリン酸が尿中へ十分排泄できず体内に貯留し(高リン酸血症)、様々な合併症の原因となります。このために、食事中のリン酸を吸収するリン吸着薬が必要となりますが、長い間、リン吸着薬としてカルシウム含有製剤が使用されてきました。カルシウム含有製剤は、安価で消化器症状も少ないですが、一方カルシウムが含有されているために血管や心臓の石灰化を促進させて、心血管疾患を増加させる懸念が指摘されてきました。近年、カルシウム非含有リン吸着薬が登場し、従来のカルシウム含有製剤より心血管リスクを軽減させる可能性が示唆され、大きな争点となっていました。本研究では、国内274施設から参加した2,374名の血液透析患者をランダムに炭酸カルシウム治療群と炭酸ランタン治療群に割付、3年以上に渡って心血管疾患の新規発症を検討し、両治療群に有意な差がないことを明らかにしました。リン吸着薬を比較検証した大規模臨床試験は初めてであり、「JAMA」にアクセプト、掲載して頂き、大変光栄です。

本研究は日本を代表する研究者の方々にご指導を頂き、日本全国274施設で実施しました。なかでも昭和大学各附属病院や関連施設の医師、メディカルスタッフの方々には多大なるご支援を頂き、完遂することが出来ました。心より御礼を申し上げます。本研究の成果が、今後の腎不全治療の一助になれば幸いです。

## 歯科補綴学講座の

## 研究チームが特許を取得

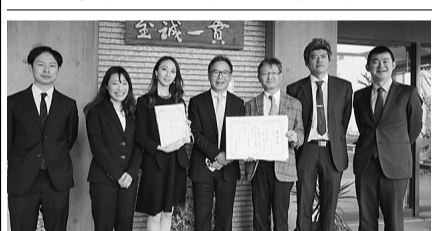
歯科補綴学講座の研究チームが「歯科用インプラント及び表面処理方法」の発明において特許を取得した。歯科用インプラントは、歯槽骨だけでなく、その周囲の歯肉(粘膜組織)に密着するため、歯槽骨及び歯肉との親和性が重要である。本発

明は、チタン系材料に代わる新たなインプラント材料として、セリア安定化ジルコニア/アルミナ・ナノ複合体(Ce-TZP/Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>)に着目した。

造を有し、歯肉を貫通して配置されるアバットメントは、歯肉と接触する頸部の表面が鏡面からなることを特徴としている。これにより、歯槽骨及び歯肉等の生体組織に対する親和性、審美性に優れかつインプラント周囲炎等の予防効果にも優れる歯科用インプラント及びその表面処理方法を提案することができた。この結果、歯科用インプラントの耐久性、持久性が向上し、長期にわたって優れた使用

が可能となった。

**【特許概要】**  
発明の名称：歯科用インプラント及び表面処理方法  
発明者：馬場一美、岩佐文則、秋山友里、大澤昂史、三田 稔、松本貴志、大嶋 瑠子  
特許出願：2019年11月28日(出願番号：特願2019-215305 (P2019-215305))  
特許登録：2021年10月11日(登録番号：特許第8088号)



歯科補綴学講座の研究チームと三邊統括研究推進センター長(右)

<https://www.jpipat.inpit.go.jp/pd200>

## 2022年度

## 医学部附属看護専門学校

## 一般選抜入学試験(1期)結果

医学部附属看護専門学校2022年度一般選抜入学試験1期を1月10日、同校で実施した。今年度は募集人員70名に対して204名が出席した。当日は学力試験と面接試験を行い、1月13日に合格者を発表する。

年度	2022年度	2021年度	
募集人員	70	70	
志願者数	男	17	20
	女	187	210
	計	204	230
合格者数	男	4	5
	女	66	65
	計	70	70